

3 成果指標の動向

成果指標について

○ 指標設定の基本的な考え方

第2期札幌市教育振興基本計画では、第2期札幌市教育アクションプラン（前期）の進行管理の参考とするため、成果指標を設定しました。成果指標の設定に際しては、基本施策ごとに、市民への分かりやすさを考慮したほか、該当する基本施策において代表的（象徴的）であるかといった要素などを加味しています。

○ 数値の説明

- ▶ 当初値…R5年10月までに把握できた数値（調査時期の都合上、R4年度の数値を当初値とした指標もあります。）

- ▶ 目標値…R11年度までに到達を目指す数値

なお、目標値は、札幌市教育アクションプラン（後期）における成果指標の動向や、全国的な動向、関連する施策や事業の特性などを勘案した上で、努力目標的要素も加味して設定しています。

- ▶ 達成区分…数値の変動の幅にかかわらず、R6年度の数値が、当初値から目標値に対し、どのように動いたかを示しています。

達成区分：「◎」到達した「➤」近づいた「—」変わらない「▼」遠ざかった

(1) 基本的方向性1 一人一人が自他のよさや可能性を認め合える学びの推進

基本施策1-1 主体的に考え行動する力を育む教育活動の推進

夢を描き、実現しようとする意欲や、地域や社会の課題に対して解決に向かう意識等が醸成されるよう、主体的に考え行動する力を育む教育活動を推進します。

成果指標の動向

●自分の目標をもって生活している子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	76.1					80	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	78.1	79.2					85	↗

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

施策の評価と今後の方向性

各学校において「課題探究的な学習」と「自治的な活動」を二本柱として子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びの実現を目指した取組を進めてきたことにより、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えられるようにしている子どもの割合」が当初値から上昇したと考えられる。

目標値到達に向けて、今後も「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」を推進し、全校を対象とした教育課程研究協議会等で、子どもが疑問や課題を解決するために、自分で方法を考える機会の充実について周知していく。

基本施策1-2 豊かな人間性や社会性を育む教育活動の推進

しなやかさを育み、自分らしさを大切にするために、他者との関わりの中で、自他の尊重を基盤とし、豊かな人間性や社会性を育む教育活動を推進します。

成果指標の動向

●自分にはよいところがあると考えている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	77.8	82.4					90	↗

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●自分が必要とされていると感じている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	61.6	68.2					80	↗

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

施策の評価と今後の方向性

R 6年度は、市内全ての子どもたちの声を集めて話し合い、各学校やパートナー校区で行う自治的な活動の活性化を図ることを目的に開催したさっぽろっ子サミットなど、R 4年度に学校教育の基盤に位置付けた「人間尊重の教育」に関する取組が充実したことにより、「自分が必要とされていると思う子どもの割合」、「自分にはよいところがあると考えている子どもの割合」は当初値と比べて増加した。

自分のよいところを自覚できるよう、子どもが自分の思いや願いを基に、学校づくり、人間関係づくり、環境づくりなどにおいて、よりよい変化を生み出せたと実感できるよう取組を充実させていく。

第3章 点検・評価の結果

基本施策1-3 多様な教育的ニーズに応じた教育の充実

様々な環境にある一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行い、可能性を最大限に伸ばし、豊かな生活を送ることができるよう、教育内容の充実を図ります。

成果指標の動向

- 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どものうち、個別的教育支援計画を支援に生かすことのできた子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	43.3	44.5					80	↗

出典：札幌市学校教育指導の実態調査（小中学校用）

- 学びのサポーターとの連携等により、支援の充実を図ることができた学校の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	92	100					100	◎

出典：「学びのサポーター活用事業」に係る令和6年度活用状況調査について

施策の評価と今後の方向性

特別支援教育コーディネーターを対象とした研修等において、個別的教育支援計画を生かした子どもへの支援・指導に係る具体事例等の周知に努めたことなどにより、「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どものうち、個別的教育支援計画を支援に生かすことのできた子どもの割合」は当初値と比べて微増したものの、依然として低い割合である。今後は、計画の活用方法を分かりやすく示したリーフレットを新たに発行すること、各校が作成した計画の活用方法を教育委員会から助言すること、校内学びの支援委員会の基礎資料として本計画を活用することを原則とする通知を発出することにより、本計画の作成及び活用の促進を図る。

全ての活用校へのアンケート結果から、「学びのサポーターとの連携等により、支援の充実を図ることができた学校の割合」は目標値に到達した。多くの学校が時数の再配当を希望している状況であるため、今後は、活用校全体での時数調整を適切に行い、効果的な運用を図る。

基本施策1-4 誰もが安心して学びに向かうことのできる支援の充実

いじめや不登校などの未然防止、早期発見のために、積極的な生徒指導を実施していくとともに、教育相談支援体制の充実や教育に係る経済的負担を軽減するための支援を進めます。

成果指標の動向

- 「自分が安心して学ぶことができている」と考えている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	86.8					100	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

- 先生や家族以外にも相談できる大人がいると考えている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	61.5					90	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

施策の評価と今後の方向性

心理の視点や福祉の視点から助言するため、SC・SSWを学校いじめ対策会議の構成員に位置付けた。全小・中学校に相談支援パートナーを配置して、校内における不登校支援の充実を図ったほか、全区に教育支援センター（サテライト含む）を開設して学校外の居場所を確保するとともに、メタバース空間を用いたオンライン支援を施行実施するなど、子どもが安心して学ぶことができる環境の整備に努めた。

「先生や家族以外にも相談できる大人がいると考えている子どもの割合」の数値が目標値と乖離しており、各種相談窓口の周知・浸透に課題があると考えられるため、相談窓口周知カードを配布する際の指導内容を工夫するなどして、安心して学ぶことができる環境について情報の浸透を促進していく。

(2) 基本的方向性2 一人一人が自他のよさや可能性を認め合える学びの推進

基本施策2-1 ふるさと札幌の特色を生かし、地域に根ざした教育活動の推進

豊かな自然や文化を継承し、それらを活用した学びの展開や市民と協働した活動を通じ、ふるさと札幌への誇りと愛着を醸成する教育活動を推進します。

成果指標の動向

●「札幌っていいな」と感じている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	89.6					90	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがあると答えた市民の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	72.6	75					90	↗

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

施策の評価と今後の方向性

札幌らしい特色を生かした教育活動を推進したことにより、「「札幌っていいな」と感じている子どもの割合」が目標値に近づいた。

「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがあると答えた市民の割合」は、数値が改善しているものの目標値には到達していないため、自己の成長を実感できるような教育を推進していく。

基本施策2-2 家庭・地域の教育力向上を支援する取組の推進

子どもたちの健やかな成長を支えるため、保護者の不安や悩みに寄り添う取組や、地域で学びふれあう機会の充実を語り、家庭・地域の教育力向上を支援する取組を推進します。

成果指標の動向

●家の人や地域の人に認められたり、支えられたりしていると感じることがある子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	83.8					90	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●家庭教育事業への参加が、今後の家庭教育に役立てることができると感じた市民の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	94.7					90	◎

出典：家庭教育学級生アンケート

施策の評価と今後の方向性

「家の人や地域の人に認められたり、支えられたりしていると感じることがある子どもの割合」は目標値に到達しておらず、コロナ禍の影響により、家庭や地域とのつながりが未だに希薄になっている学校が多くあると考えられる。目標値到達に向けて、学校と家庭や地域をつなぐコミュニティ・スクールの仕組み導入促進を図る。

「家庭教育事業への参加が、今後の家庭教育に役立てることができると感じた市民の割合」は、家庭教育学級等への参加を通じて、子育てに関する知識を得て家庭内で実践したり、他の保護者とつながることで不安感や孤立感が軽減するなどしたため、目標値に到達した。今後も家庭教育学級等を通じて家庭教育の重要性を発信するとともに、保護者が気軽に実践できる家庭教育の知識や技術等を学ぶ機会や保護者同士の交流の場を提供していく。

第3章 点検・評価の結果

基本施策2-3 多様な地域資源を活用した豊かな学びや子どもの成長を支える取組の推進

多様な地域人材や様々な団体・機関との連携・協働により、体験活動をはじめとする豊かな学習機会を提供できるよう、地域資源を活用した学びや子どもの成長を支える取組を推進します。

成果指標の動向

●地域学校協働活動に参加している子どもの年間延べ参加者数

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	13,061	47,150					53,000	↗

出典：個別活動実施報告書

●自分の学びや成長に学校以外の様々な人が関わっていると感じている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	80.4					90	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

施策の評価と今後の方向性

R 5年度からサッポロサタデースクール事業の名称を「地域学校協働活動推進事業」と改め、要件の変更によりスキー授業に地域住民が参加することも対象になったことなどに加えて、コミュニティ・スクール制度の開始に合わせて、教職員向け研修の場での事業説明や、未実施校への広報・個別訪問による説明を実施したことにより、地域学校協働活動実施校数が増加し、参加者数が当初値と比べて増加した。今後も目標値到達に向けて、学校と家庭や地域をつなぐコミュニティ・スクールの仕組み導入促進を図る。

基本施策2-4 生涯にわたり学び、学んだ成果を生かすことのできる機会の充実

生きがいを持って豊かな人生を送ることができるよう、誰もが生涯を通じて学び続けられる場の充実とともに、学んだ成果を生かすことのできる機会の充実を図ることにより、「学び」と「活用」の循環を支えます。

成果指標の動向

●生涯学習をしている市民の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	76.2	76.4					80	↗

出典：第2次戦略ビジョンに係る市民意識調査

●これまでに学んだ成果を生かしているまたは今後生かしたいと考えている市民の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	75.2					80	—

出典：札幌市生涯学習センターが実施する市民力レッジの受講者アンケート

施策の評価と今後の方向性

当初値と比べて「生涯学習をしている市民の割合」は微増している。引き続き、生涯学習センターや青少年科学館などの市民が生涯を通じて学び続けられる場や、その場所での活動機会を提供し、生涯学習の裾野を拡大することで、目標値到達を目指す。

生涯学習に取り組む人の多くが、学んだ成果を生かしているまたは今後生かしたいと考えており、自分の人生をより豊かにするために学んでいると考えられる。今後も市民力レッジにおいて受講後の活動支援を意識した講座を展開するなど、学んだ成果を生かすことができる場や活動機会の充実に取り組むことで、市民の学習活動を一層推進していく。

(3) 基本的方向性3 社会の変化に対応した教育環境の充実

基本施策3-1 安全・安心な教育環境の整備

安全教育と子どもの安全管理の推進を図るほか、教育を取り巻く環境変化を踏まえながら、子ども達や市民が安心で充実した教育機会を整えます。

成果指標の動向

●自分の学ぶ環境は、安全面での配慮がされていると考えている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	89.9					100	—

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●市立園・学校におけるバリアフリートイレの整備割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	63.4	88.5					100	↗

出典：独自調査

●普通教室等へ冷房設備を整備した市立園・学校の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	0	5.1					100	↗

出典：独自調査

施策の評価と今後の方向性

「自分の学ぶ環境は、安全面での配慮がされていると考えている子どもの割合」を目標値に近づけるため、各学校に学校安全計画と危機管理マニュアルの見直しのポイントを提示して、子どもの安全管理を推進する。

バリアフリートイレについてはR 7年度末の整備完了に向けて、普通教室等への冷房設備についてはR 9年度末の整備完了に向けて、引き続き取組を推進する。

基本施策3-2 教育DX推進に向けた教育環境の整備

ICTを活用して情報活用能力を育成するとともに、教育データを利活用しながら、様々な学びや支援へのニーズに対応する教育環境の整備を進めます。

成果指標の動向

●情報の正しい活用の仕方を考えて端末を使っている子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	93.1					90	◎

出典：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標

●授業や校務にICTを効果的に活用できる教員の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	81.9	82.1					100	↗

出典：教育の情報化の実態等に関する調査

施策の評価と今後の方向性

「情報の正しい活用の仕方を考えて端末を使っている子どもの割合」は目標値に到達した。今後も、各学校で設定する「1人1台端末活用のルール」の確認や、情報活用能力体系表をもとに、発達段階に応じた資料やアプリ等を用いて、継続的に情報リテラシーを高める取組を進めていく。

「授業や校務にICTを効果的に活用できる教員の割合」は目標値に近づいた。目標値到達に向けて、効果的な活用方法に関する研修や情報提供を充実させ、教師の指導力向上を目指す。

第3章 点検・評価の結果

基本施策3-3 子ども一人一人の学びを支える教職員の資質向上と指導体制の構築

デジタル化やグローバル化などの様々な環境変化に対応し、子ども一人一人の学びを支える教職員の資質向上と指導体制の充実を図ります。

成果指標の動向

- 「教職経験に応じた研修」における学びの成果を生かして子どもの学びの充実を図っていると答えた教職員の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	97.6					100	—

出典：研修後のアンケート調査

施策の評価と今後の方向性

教育委員会が設定したテーマに基づく内容の研修と、研修対象者が自分のニーズに合った内容を選択する研修を組み合わせ受講することが可能な形態を取り入れていることで、「「教職経験に応じた研修」における学びの成果を生かして子どもの学びの充実を図っていると答えた教職員の割合」は高い数値となっている。今後は、研修での学びを自分の実践に生かすことを促したり、より多くの気づきを生み出すことができるよう、交流や協議等の対面によるよさを生かした研修を実施する。

基本施策3-4 豊かな生活につながる学びの環境の充実

生涯を通じた主体的な学びを支援するため、健康で豊かな生活につながる学びや地域の課題解決にかかわる学びなど多様な学びが活発に行われる環境の充実を図ります。

成果指標の動向

- 自己の発育や健康に関心をもつ子どもの割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	—	82.7					100	—

出典：さっぽろっ子「学ば力」の育成プラン 札幌市全体の共通指標、高校生アンケート

- 図書館の年間延べ来館者数

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	2,258,324	2,547,694					3,000,000	↗

出典：札幌市の図書館2025

- 図書館の利用登録がある市民の割合

年度	当初値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目標値	達成区分
数値	14.6	14.5					25	↘

出典：札幌市の図書館2025、札幌市人口統計

施策の評価と今後の方向性

学校保健安全法に基づいた健康診断の実施や、熱中症対策・感染症対策の取組などを推進することで、自身の発育や健康に関心をもつ機会を確保した。

「図書館の年間延べ来館者数」は、新型コロナウイルスが5類に移行し、来館を控えていた利用者が来館するようになったため、当初値より増加したと考えられる。引き続き、多種多様な図書展示や行事を実施するほか、市民の学びや課題解決に資する情報提供・調査相談機能の充実を図り、来館者数の更なる増加を目指す。

「図書館の利用登録がある市民の割合」は微減している。新規利用者獲得に向けて、電子図書館をはじめとする非来館型サービスの周知を行い、広報の充実をめぐる。また、利用登録は有効期間内に来館して更新手続きをしなければ削除されるため、来館しなくても新規登録や更新が行えるようなICT技術について導入を検討する。